

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
砂田 信夫			
土23			
添付ファイル			

科目の概要	・教材研究（教科書を活用）や模擬授業の実践を通して、今求められている「主体的・対話的で深い学び」（以下「深い学び」）を実現する社会科授業について講義する。
授業の内容	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション *シラバスを事前に読み、質問や意見を考えておくこと ・小中学校社会科の大まかな構成を解説する。 *小中学校での授業経験を想起しておくこと <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業のグループを決め、小学社会6年上の教科書[歴史分野]の教材研究をする。 *教科書を読み、どの単元の模擬授業をしたいか考えておくこと <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科の示範授業(DVD)を視聴し、「深い学び」を実現する授業展開に必要なポイントを解説する。 *役割（係）分担や今後のスケジュールを考えておくこと <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに、教材研究に取り組む。 *合わせて、家庭や近隣の図書館など学校外でも教材研究を進めること <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに、学習指導案（模擬授業用）作成に取り組む。 *各自が作成してきた学習指導案を持ち寄ること <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの学習指導案を発表し合い、「深い学び」の観点から討議する。 *「深い学び」を実現するためのポイントを想起しておくこと <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> 「深い学び」の観点から、グループの学習指導案を再検討・修正する。 *板書計画や発問等にそって、授業の流れをイメージしておくこと <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業と討議① (主な討議テーマ： 発問と指示の仕方、子どもの発言の促し方など) *「8回～13回」においては、毎回、気づいたことを記録したり、分析したりして、まとめておくこと <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業と討議② (主な討議テーマ： 話し合い活動のさせ方) <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業と討議③ (主な討議テーマ： 「学習のめあて」のめあせ方、「本時のまとめ」の書かせ方など) <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業と討議④ (主な討議テーマ： ノート指導の仕方) <p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業と討議⑤ (主な討議テーマ： 文献やインターネット等を利用した情報収集の仕方) <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業と討議⑥ (主な討議テーマ： 板書構成の仕方、グループのつくり方など) <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> 「「深い学び」を実現する社会科授業とは？」を視点に、今一度、成果と課題を整理し、解説する。 *これまで（6回分）の模擬授業の成果と課題を整理しておくこと <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義のまとめ *教壇に立ったとき、どのような社会科授業を実践するのか、発表できるようにしておくこと
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「深い学び」を実現する授業展開のポイントを踏まえ、学習指導案が作成できる。 ・「深い学び」を実現する授業展開に必要な技能(発問、板書、資料作成など)を習得し、模擬授業の中で活かすことができる。 ・教材研究や模擬授業の実践を通して学んだことをもとに、模擬授業後の討議に参加できるようになる。
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業形態： 解説のみならず、創意工夫を生かした教材研究や模擬授業の実践を通して興味関心を高め、学習到達目標の達成をめざす。 ・グループワーク： 「第4回～第7回」においては積極的にグループワークを取り入れ、各自が準備してきた教材・資料等を活かせるようにする。 ・ディスカッション： 「第8回～第13回」においては必ず討議の時間を設定し、授業の成果と課題を共有する。 ・コンピュータ等の活用： 社会科授業に関する情報活用能力の育成（資料収集）を図るため、コンピュータや報通信ネットワークなどの情報手段を活用する。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る。
成績評価の方法	授業内課題（模擬授業、小テストなど）50%、 レポート試験50%
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小学社会6年上の教科書（教育出版） ・小学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省、平成29年改訂）

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『若い先生に伝えたい!! 授業のヒント60』（北 俊夫著 文溪社） ・小学校学習指導要領（文部科学省、平成29年改訂）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の内容」の項の「*印」の指示を参照すること ・近隣の小学校や出身小学校では、近年、年に数回の参観日や研究発表会を公開している。進んで参加してほしい。その際は、当該小学校の許可をいただくので、事前に教務課を通して砂田まで必ず申し出ること
履修上の留意事項	授業日に注意すること
オフィスアワー	授業終了後に講師控室まで
担当教員への連絡方法	必ず教務課に申し出ること
その他	